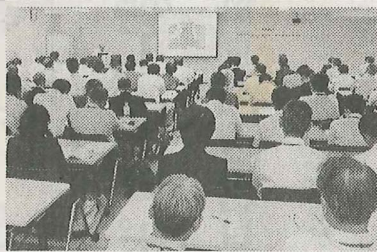


北陸整備局

災害の歴史を解説

竹林氏(富士常葉大 名誉教授)が特別講演

北陸地方整備局主催の特別講演会「北陸地方の風土に刻された災害の宿命―環境防災学と風土工学の視座―」が25日、新潟市中央区の本局で開かれた。写真上。講師の国



の扇状地の今に至る原型により形づくられ、明治

(15) 2015年(平成27年) 6月29日(月曜日)



竹林教授

以降の近代土木工学に沿った整備により現在の姿に至っていることを熱弁した。

講演では、さまざまな災害とその後の治水事業の変遷が紹介された。

最初に弘化4(1847)年にあった善光寺地震により、長野市西部の犀川丘陵を中心に多くの土砂災害が発生。特に犀川北側の岩倉山では、大きな地すべりが発生、河道を閉塞(へいそく)して、巨大な天然ダムが形成され、これが19日後に決壊して大洪水が発生した。その様子を記した絵図が残っており、いかに被害が大きかったのかを現代に伝えていることを説明。

さらに、明治29(1896)年に発生した信濃川の堤防決壊、いわゆる「横田切れ」により、大河津分水建設の音が高まり、1922年に工事を終えた分水路が今も地域を守り続けていることや、昭和42(1967)年、新潟県内に大きな被害をもたらした羽越水害を契機に荒川、胎内川などの治水計画が見直され、内の倉ダム、奥胎内ダム(現在建設中)の建設につながったことなどを紹介した。

中部・北陸

名古屋支社
北陸総局

〒461-0001 名古屋中東区泉一丁目3番9号(TODABEL)
電話052・991・2000 FAX052・991・2001 nagoya@decn.co.jp
〒951-8006 新潟市中央区東堀通一番街343(東堀ビル)
電話025・226・5411 FAX025・226・5412 hokuriku@decn.co.jp